

オンライン講座を担当する非常勤講師への大学側の対応、
各大学による違いが顕著（11月12日）

非営利組織の WICHE 教育技術協同組合（WICHE Cooperative for Educational Technologies : WCET）とオンライン・プログラム管理会社のラーニングハウス社（Learning House）は、大学オンライン講座を担当する非常勤講師に関する調査報告書「オンライン講座担当非常勤講師の採用・オリエンテーション・支援 ～実態調査～（Recruiting, Orienting, & Supporting Online Adjunct Faculty: A Survey of Practices）」を発表した。本報告書は、オンライン講座を提供する 2 年制・4 年制大学 202 校の学部長・ディレクター・総長などといった管理者を対象とした調査結果を分析したものである。これによると、オンライン講座を担当する非常勤講師に対する専門研修、学生の対処方法に関する方針を記載した文書、授業内容をカスタマイズする機会などの提供が行われるか否かは、各大学によって大きく異なることが明らかにされた。主要な調査結果は以下の通り。

- ・授業内容のカスタマイズが自由に許されていると回答した管理者は全体の 52.1%。
- ・研修の提供では、学業・学生に関する方針に関する研修受講を義務付けると回答した管理者は全体の 62%、支援サービスに関する研修は 61%、大学で使用される技術に関する研修は 47%。その一方で、9%はオンライン講座担当非常勤講師に対する研修受講義務はないと回答。
- ・オンライン講座担当非常勤講師の入れ替わりが 1 年あたり 10%未満と回答した管理者は全体の 69%。また、10%以上と回答した管理者のうち、20%以上と回答したのは 5%のみ。

なお、本報告書の概要は<<http://www.learninghouse.com/adjunct2015-report/>>から、閲覧可能。

Inside Higher ED, Supporting Online Adjuncts
<https://www.insidehighered.com/news/2015/11/12/study-explores-hiring-and-managing-practices-online-adjunct-faculty-members>